

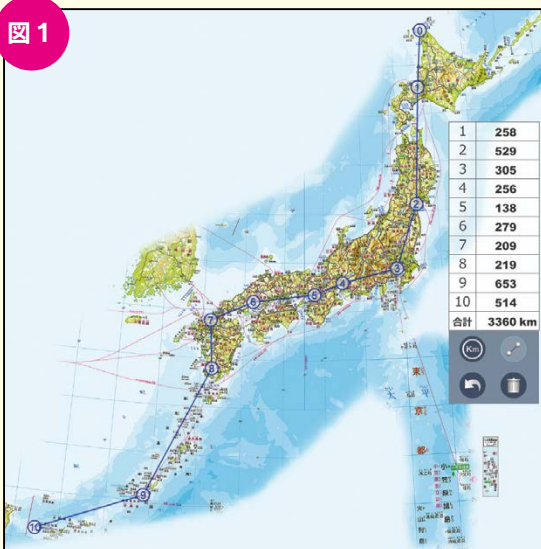
「距離計測機能」で 日本の大きさを実感しよう！

帝国書院 資料編集部

1学期号では、県の面積を比較してスケール感を身につけさせる事例を紹介しました。児童にとっては、この**スケール感の習得**が重要です。

児童の多くが、日本=北海道~九州だと思っていますが、実際には東西南北に広がっています。ここで東西約3150km、南北約3000kmと説明しても、児童がイメージするにはスケールが大きすぎます。そこで、**世界一長い川：ナイル川（約6700km）**を使って、**日本列島のスケール感を習得する方法**を紹介します。デジタル地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳』には「**距離計測機能**」があります。**2点間の距離だけでなく、最大10地点を結んだ距離を計測**することができます。

まず、北海道の稚内市を起点とします。そこから札幌市~仙台市~東京~名古屋市~大阪市~広島市~福岡市~鹿児島市~那覇市~与那国島間を計測すると、3360kmとなります（**図1**）。ここで児童に「3360kmはナイル川の長さに全然足りないけど、何か気がつかない？」と質問します。もし反応がなかったら、「3360kmと3360kmを足してみてくださいらん」とヒントを出します。答えは6720kmです。そう、ナイル川の長さは**稚内市~与那国島の一往復分とほぼ同じ**なのです。する



稚内市から与那国島までの長さ

図2



南西諸島と本州の比較

とナイル川のスケール感とともに日本列島のスケール感のイメージもつながりやすくなります。

南西諸島の長さに実感を伴わせる方法もあります。1学期号で紹介した「都道府県や各地方の形を自由に移動できる機能」を再度活用し、**南西諸島を表示**します。そして児童に「鹿児島市の場所を青森市に合わせたら与那国島はどこまでいかな？」と聞きます。続けて「東京だと思う人？」、「名古屋？」、「大阪？」、「広島？」という要領で手をあげさせ、最後に「広島よりももっと先だと思う人？」の質問で締めます。実際に地図上で重ねると、予想をこえて**山口県萩市付近に与那国島がくる**のがわかります（**図2**）。これで、南西諸島の距離感をつかむことができます。

大人が思う以上に、児童にとってスケール感をもつのは難しいようです。授業で出てくる数値は、日常生活よりもさらに長く大きいものです。デジタル地図帳を上手に活用して、スケール感をぐっと身近なものにしてはいかがでしょうか。

図1

操作手順

デジタル地図帳『楽しく学ぶ小学生の地図帳』で距離を計測

←① トップページ（もくじ）の「一枚で見える日本列島」をクリックして日本全図を表示
※地図ページの…（教科固有ツール）を開いて、アイコンをクリックしても表示できます。

←② アイコンをクリックして距離計測機能を表示

